

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 8 日現在

機関番号： 34309
研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2009～2011
課題番号： 21520694
研究課題名(和文) 近世～近代遊郭における遊女・遊女屋・遊客の研究
研究課題名(英文) A Study on the Prostitutes, Customers and Brothels
in the Early Modern and Modern Period Japan
研究代表者
横田 冬彦 (YOKOTA FUYUHIKO)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号： 70166883

研究成果の概要(和文):

近世の遊女屋の経営史料として稀有な史料である「島田屋文書」の翻刻を完成させた。また、同文書そのほかにより、近世の遊女の供給源が数カ国にまたがるような広域的なものであったことを明らかにした。また、近世においては、買春は、単身赴任の武士をはじめ、港町や宿場町など非日常的な機会であったのに対し、近代に入って1910～20年代になると大都市を中心に買春が大衆化し、日常的なものになることを、「遊客名簿」の分析によって明らかにした。

研究成果の概要(英文):

The decipherment of the brothel Shimada-ya's documents has been achieved. By the analysis of these documents, it is made clear that the supply with prostitutes was supported by a social system of a large region over some countries. And according to the customers' lists of brothels, for common men in Edo era it had been mostly special occasions like traveling or visiting temples to pay for prostitution, but the commercial sexual exploitation have become common in their ordinary lives around 1910-20s.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、日本史

キーワード：ジェンダー史、日本女性史、遊女、娼妓、売買春、遊客、遊郭、都市化

1. 研究開始当初の背景

これまでの遊郭史研究は、女性史研究として大きな成果をあげてきたにもかかわらず、遊女屋そのものの経営史料が殆ど存在しないという点で、遊女=娼妓そのものの売春・生活の実態が史料的に十分解明されていないこと、買春をする男性遊客の実態が史料発掘をはじめ全く明らかになっていないという大きな欠陥をもっていた。

2. 研究の目的

- (1)本研究は、京都橘大学所蔵の信濃善光寺門前権堂遊郭の水茶屋の経営文書である「島田屋文書」を中心素材とし、その整理・公開作業、分析をおこなうことによって、近世～近代の遊郭における、遊郭経営・遊女・男性遊客の実態を明らかにすることを第一の目的とする。また、島田屋の遊女=娼妓の出身地として、信濃・越後・越中・上野・下野・甲斐・江戸などの広域的な流動性についても調査、検証をおこなう。
- (2)特に本研究の第二の眼目である男性遊客の問題については、全国的に「遊客名簿」などの史料発掘に取り組む。
- (3)これらの成果をもとに、遊郭をふくむ社会のあり方(村落社会史・都市社会史・家族史・宗教社会史・出版文化史など)の構造的分析についての見通しを示し、また比較史的考察にも取り組む。

3. 研究の方法

- (1)すでにこれまでの準備段階で行ってきた、上記「島田屋文書」の整理作業をさらにすすめる、その近世部分についての翻刻作業を行い、その成果をひきつづき、『京都橘大学大学院研究論集』に掲載する。
- (2)「島田屋文書」の関連資料の調査をおこなう。島田屋の所在する善光寺門前権堂村の名主永井家の史料、善光寺大勧進代官今井家の史料について長野市立公文書館・長野県立歴史館などの調査をおこなう。また、近隣宿場で遊郭の所在が確認される、坂城宿・戸倉宿・飯田宿など、信濃国内の調査もおこなう。あわせて越後・上野・下野など島田屋の遊女の出身地についても、広く調査をおこなう。

(3)他地域の遊郭の関連調査、特に「遊客名簿」についての調査をおこなう。

(4)研究・調査体制としては、近世分野を研究代表者でもある横田が、近代分野を研究分担者の高久が担当し、全体を横田が総括するものとする。研究協力者(調査補助員)として、京都橘大学大学院の在籍院生や大学院修了者を雇用し、「島田屋文書」の史料整理・翻刻作業をはじめ、その他各地の史料調査補助業務を担当させる。

4. 研究成果

(1)「島田屋文書」の翻刻については、近世部分についてこれを完成させることができた。近代部分についても目録を完成させている。

これらについての分析を進めたので、その成果を引き続き公表する予定である。近世については、200点近い飯盛女奉公人証文の分析のほか、遊女屋経営史料としての勘定帳を発見し、遊女一人づつについての経費状況を明らかにすることができ、借金が累積していく様子が克明に明らかとなった。なおこの史料によれば、飯盛女の衣装や下着などについても具体的に明らかとなった。近代については、遊女一人づつについての、経費勘定帳のほか、遊客名簿を確認し、分析をおこなった。

(2)「島田屋」の遊女100余人について、その出身地域をあきらかにしたところ、実に6割以上が越後で、信濃国内は2割にすぎなかった。

このことをふまえて、直接関連した地域史料調査として長野県・新潟県・福島県を調査し、越後国直江津今町遊郭・同高田城下町の調査では大きな成果を上げることができた。また、越後からは信濃のみならず、上野・下野・出羽などへも遊女が供給されており、また相互の地域間流動性も認められた。また遊女屋経営者の出自や特質についての分析を行った結果、そこには、「島田屋」の経営者が博徒であったことなど、こうしたアウトロー的存在の広域的な活動が遊女供給の背景にあったと考えられた。

(3)長野善光寺門前における大勧進今井家文書、権堂村名主永井家文書の調査、およびまた、関連史料として権堂村名主永井家文書の散逸部分(約200点)を発見しこれを収集し、整理した。その中には権堂遊郭における未知の遊女屋仲間の規定などもふくまれている。これらによって、善光寺門

前地域における遊郭の社会的構造分析が可能になった。

- (4) そのほか今回の遊郭研究において、多くの史料に恵まれ分析を行うことのできた特色のある遊郭として、長崎丸山異人遊郭をあげることができる。ここでは遊郭のあった寄合町ほかの史料を調査することによって、「鎖国」下の異人遊郭における異国人相手の遊女と混血児の問題について考察した。ここでは遊女の出産、遊女が子供を産める身分かどうか問題となる。

また、近世においては稀有な、幕末の「遊客名簿」を発見し、これを紹介・分析する論考を発表した。本史料は幕末であったので、異国人の利用は1割程度であったこと、長崎の商人・町人の利用は、他所からの商人らの利用の半分に満たず、周辺農村の農民の利用が一例しか無かったことなどを明らかにした。

- (5) 他方、近代の「遊客名簿」については、信濃善光寺門前(権堂=鶴賀遊郭)をはじめ、京都(島原・七条新地・宮川町・祇園)、大阪(新町・五花街)、伊勢山田(古市)、博多(柳町)、豊後日田などの史料を収集した。これらの「遊客名簿」はこれまでの研究において全く顧みられなかったものであり、収集もされなかった資料群である。

その結果、1910-20年代にかけて、都市化が急速にすすむとともに、大都市における遊郭が大衆化し、都市男性のかなりの部分が日常的に遊郭を利用するという実態を明らかにすることができた。

- (6) なお、比較史的な視座を確保するために、海外研究機関との連携も予定していたが、経費の関係から今回は情報収集にとどめることになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

横田冬彦「長崎丸山遊郭の『遊女屋宿泊人帳』覚書」(査読、京都橘大学女性歴史文化研究所『女性歴史文化研究所紀要』20号、2012年3月、65-92頁)

高久嶺之介「明治前期地域研究のいくつかの論点 滋賀県の事例から」(査読、近現代史研究会編『近現代史研究』2号、2010年3月、31-41頁)

横田冬彦「江戸時代、出産の風景」(『クノス』31号、2009年10月、33-37頁)

〔学会発表〕(計2件)

横田冬彦「日本近代における遊女と遊客」(第20回京都橘大学女性歴史文化研究所・シンポジウム「近代女性の比較史 日本とドイツ」、2012年7月実施確定、於大学コンソーシアム京都)

高久嶺之介「明治の京都を訪れた外国人皇族たち」(第19回京都橘大学女性歴史文化研究所・シンポジウム「幕末・明治の京都と女性」、2010年7月実施、於大学コンソーシアム京都)

〔図書〕(計5件)

『東近江市史 能登川の歴史 第4巻資料・民俗編』(滋賀県東近江市、2012年3月) / 高久嶺之介執筆 320-337・396-410頁

横田冬彦・ひろたまさき編『異文化交流史研究の再検討 日本近代の経験とその周辺』(平凡社、2011年5月、総頁数422頁) / 横田冬彦「混血児追放令と異人遊郭の成立 「鎖国」における人種主義再考」(27-96頁)、高久嶺之介「明治前期の京都とイギリス皇族 一八八一年の異文化交流」(139-180頁)

高久嶺之介『近代日本と地域振興 京都府の近代』(思文閣出版、2011年3月、354頁)

高久嶺之介編『近江日野の歴史 第8巻史料編』(滋賀県蒲生郡日野町、2010年11月) / 高久嶺之介執筆 323-324・345-367・393-396・398-423頁

比較社会教育史叢書『識字と読書 リテラシーの比較社会史』(昭和堂、2010年3月) / 横田冬彦「日本近世上層町人における<家>の教育」(99-130頁)

〔その他〕(計4件)

史料翻刻

横田冬彦「資料・京都橘大学所蔵・信濃善光寺門前茶屋「島田屋文書」(五)」(『京都橘大学大学院研究論集』10号、2012年3月、55-72頁)

横田冬彦「資料・京都橘大学所蔵・信濃善光寺門前茶屋「島田屋文書」(四)」(『京都橘大学大学院研究論集』9号、2011年3月、73-93頁)

横田冬彦「資料・京都橘大学所蔵・信濃善光寺門前茶屋「島田屋文書」(三)」(『京都橘大学大学院研究論集』8号、2010年3月、57-86頁)

塵海研究会編『北垣国道日記「塵海」』(思文閣出版、2010年2月、総頁数605頁 / 高久嶺之介・小林丈広「解説」564-605頁)

横田冬彦「資料・京都橘大学所蔵・信濃善光寺門前茶屋「島田屋文書」(二)」(『京都橘大学大学院研究論集』7号、2009年3月、57-72頁)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

横田 冬彦 (YOKOTA FUYUHIKO)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：7 0 1 6 6 8 8 3

(2)研究分担者

高久 嶺之介 (TAKAKU REINOSUKE)
京都橘大学・文学部・教授
研究者番号：4 0 1 0 4 6 0 8